

黒田もフジタも梅原も
——モーリス・ドニとの幸福な往来

ビニの見た日本

日本が見たビニ



モーリス・ドニ《若い母》1919年 国立西洋美術館 松方コレクション

MAURICE DENIS AND JAPAN

2024 8|27(火)→10|20(日)

[展示替]前期: 8月27日(火)~9月23日(月・休) / 後期: 9月25日(水)~10月20日(日)

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
新潟県立近代美術館

<https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

[開館時間] 9:00~17:00 (観覧券の販売は16:30まで) [休館日] 9月2日(月)、9日(月)、17日(火)、24日(火)、30日(月)、10月7日(月)、15日(火)

[観覧料] 当日一般 1,500円(1,300円)、大学・高校 1,000円(800円)、中学生以下無料

※()内は20名様以上の団体料金です。※障害者手帳をお持ちの方は観覧料が免除になります。受付でご提示ください。※高校生、大学生は、学生証をご提示ください。※前売券はありません。

[主催]新潟県立近代美術館 [共催]新潟日報社 [協力]新潟県立美術館友の会 [後援]新潟県教育委員会、長岡市、長岡市教育委員会、長岡新聞社、FM新潟77.5、FMながおか80.7、新潟・フランス協会

[助成] NOUURA 野村財團

MAURICE DEN

モーリス・ドニ
(1870-1943)

は19世紀末フランスで、次世代への橋渡しとして、かけがえのない役割を担った前衛グループ「ナビ派」(ヘブライ語で「預言者」の意)の中心人物でした。セリュジエやボナール、ランソンらとともに、絵画の枠を超え、建築、演劇、文学、音楽などと結びつくような創作活動を実践しました。優れた批評家でもあり、造形と文筆の両輪で近代西洋美術史に足跡を残しました。

ドニやナビ派の影響は遠く日本にも及びました。「ナビ派の学校」であるアカデミー・ランソンで、直接教えを受けた日本人画学生も少なくありません。

本展ではドニの生涯を国内の名品を通して展観します。そして、それぞれの時期に彼と日本の美術がどのように関わってきたのか、黒田清輝が目についたであろう初期作品から、ドニに学んだ留学生たちの作品、早くから来日して日本で展示された作品を振り返ることで辿ります。

出会いから幸福であったモーリス・ドニと日本の近代洋画の関係をご覧ください。

I みどころ ドニと同時代日本人たちの運命的な出会い

II みどころ ドニたちの夢の学校、アカデミー・ランソン



モーリス・ドニ
『ラ・デペッシュ』紙
1892年 (AN. 4884)
京都工芸織維大学 美術工芸資料館
【後期展示】



アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック
『ディヴァン・ジャポネ』
1893年 サントリーポスターコレクション
(大阪中之島美術館寄託)
【前期展示】



モーリス・ドニ
『夕映えの中のマルト
(マルト・サンボリスト)』
1892年 新潟県立近代美術館
万代島美術館

1

ジャポニスムの申し子

日本趣味が流行していた19世紀末のパリで、ドニやボナールら若い芸術家によって「ナビ派」が結成されました。

平坦な色面や装飾性、大胆な構図は、次の時代の絵画を予告するものでした。

ナビ派と関連の深い象徴主義の作家たちや、

同時代のパリにいてナビ派の登場を目撃した画学生・黒田清輝の作品も併せて紹介します。

「ナビ派」の誕生に居合わせた日本人



黒田清輝
『夏図習作(横たわる女)』
1892年頃 宇都宮美術館



モーリス・ドニ 『雛鶏と少女』
1890年 国立西洋美術館

ISLAND JAPAN

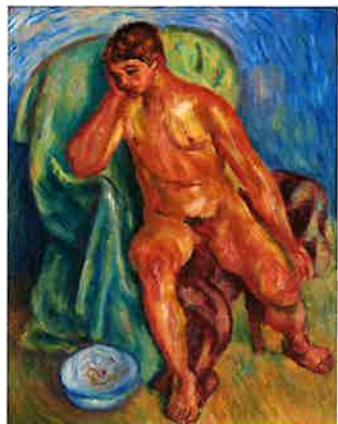


モーリス・ドニ《アルミードの園》 1907年 富士屋ホテル

ピエール・ボナール《子供と猫》

1906年頃 愛知県美術館

モーリス・ドニ《聖母月》
1907年 ヤマザキマザック美術館



梅原龍三郎《ナルシス》
1913年 東京国立近代美術館

アカデミー・ランソン

1900年頃を境としてドニは古典美術に開眼し、「絵画とは何か」について思索を深めながら創作を続けました。「ナビ派の学校」といわれるアカデミー・ランソンを仲間たちと開校し、教壇に立って後進を指導しました。そこでは梅原龍三郎や足立源一郎ら多くの日本人画学生が籍を置き、直接ドニの指導を受ける者もいました。

パリの画学生～明治・大正・昭和

宗教芸術家として

生涯を通じて敬虔なカトリックだったドニは、第一次大戦後の1919年にアトリエ・ダール・サクレを設立し、宗教画の復興を目指しました。また壁画装飾の仕事にも精力的に取り組みました。この頃、日本人コレクターによってドニの作品が収集愛好されるようになり、1920年代には日本で実際にドニの作品が展示されました。

そして彼の絵は海を渡る



小柴錦侍《卒世(いつも)やさしいサンタマリア》

1926年 如水会



藤田嗣治《吾が画室》 1936年 公益財団法人平野政吉美術財団

© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 X0279



モーリス・ドニ《波》 1916年 大原美術館



ピエール・ボナール《雨降りのル・カネ風景》

1946年 上原美術館



モーリス・ドニ 《ベンガル虎 バッカス祭》
1920年 (左)240.4×258.5cm. (右)232.5×153.0cm
新潟県立近代美術館・万代島美術館



モーリス・ドニ 《バッカス祭》
1920年 99.2×139.5cm 石橋財团アーティゾン美術館

みどころ

ドニ畢生の大作

『バッカス祭』、ついに国内そろい踏み

◎主な出品作家

ルノワール	黒田清輝
セザンヌ	久米桂一郎
ゴーギャン	藤島武二
ベルナール	青木繁
ルドン	斎藤与里
ロートレック	梅原龍三郎
ドニ	足立源一郎
マイヨール	小柴錦侍
ルーセル	児島虎次郎
イベルス	小杉未醒
ランソン	太田喜二郎
ヴァロットン	土田麦僊
レイセルベルヘ	満谷国四郎
ボナール	岸田劉生
ヴュイヤール	黒田重太郎
セリュジエ	藤田嗣治
ビシエール	国松桂溪
アンドレ・ロート	板倉鼎
デヴァリエール	福島金一郎
	宮本三郎
	青山義雄
	ほか

会期中のイベント

[会場]当館講堂 定員165名／申込不要／参加無料

講演会「憧憬から現実へ——日本人とモーリス・ドニ」

8月31日(土) 14:00～15:30 [講師]佐々木奈美子氏(久留米市美術館学芸課長)

美術鑑賞講座「モーリス・ドニの日本イメージ——魂の故郷へ」

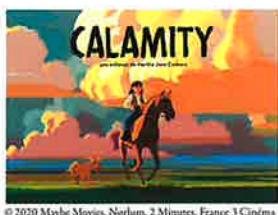
9月28日(土) 14:00～15:30 [講師]平石昌子(当館専門学芸員)

映画鑑賞会「カラミティ」

(2020年、レミ・シャイエ監督、フランス・デンマーク映画、82分)

ナビ派の色彩を受け継いだ映像美と
心躍る物語で繰るフランス・アニメーションの傑作。

9月22日(日・祝) 14:00～



同時開催

コレクション展第3期

8月27日(火)～12月15日(日)

展示室1「親と子のアクリル美術館 はい、ポーズ！」

展示室2「没後40年 竹谷富士雄」

展示室3「近代美術館の名品」

○美術鑑賞講座

「魅力再発見 パリの色彩を描いた洋画家・竹谷富士雄」

10月19日(土) 14:00～15:30

[講師]長嶋圭哉(当館主任学芸員) [会場]当館講堂

定員165名／申込不要／参加無料

学芸員によるギャラリートーク

①9月15日(日) 14:00～ / ②10月13日(日) 14:00～

[会場]企画展示室 申込不要／要観覧券

親子でアート！親子ふれあいデー

①9月14日(土) / ②10月13日(日)

中学生以下の子を同伴する

保護者のコレクション展観覧料が無料になります。

※子ども1人につき保護者2人まで ※ドニ展は対象外です。

親子ふれあいデーに
「おしゃべりタイム」を
ドニ展も実施します。

展示室内で声の大きさを気にせず
鑑賞をお楽しみいただける日です。
小さなお子さま連れでも
気兼ねなくご来館ください。

○次回企画展

「皇室の名宝と新潟

——皇居三の丸尚蔵館収蔵品でたどる日本の技と美——

2025年2月7日(金)～3月16日(日)

○新潟県立万代島美術館(新潟市)の展覧会

「化石ハンター展」6月25日(火)～9月23日(月・休)

「古代エジプト美術館展」10月11日(金)～12月15日(日)

TEL. 025-290-6655

○交通案内【新幹線・在来線】JR長岡駅下車 【バス】長岡駅大手口8番線：中央環状線「るりん」内回り「県立近代美術館前」下車(乗車約15分)すぐ、長岡駅大手口2番線：センターブラザー・日赤病院方面行き「日赤病院前」下車(乗車約15分)から徒歩5分 【車】関越自動車道：長岡I.C.から約10分、北陸自動車道：長岡北S.I.C.から約10分



THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART 新潟県立近代美術館

〒940-2083 長岡市千秋3丁目278-14 TEL.0258-28-4111

<https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/> X: @niigata_kinbi